

令和3年度 筑前町ごみ減量化対策事業
(新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業)

第1回 生ごみ減量モニター 事業実施報告書

令和4年12月
筑前町 環境防災課

目 次

	頁
I 事業目的・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II 実施方法・・・・・・・・・・・・・・・・	1
III アンケート集計結果・・・・・・・・	2
IV 意見交換会報告・・・・・・・・・・	14
V 事業実施報告まとめ・・・・・・・・	16
VI 使用したアンケート票	

I 事業目的

新型コロナウイルス感染症の拡大により、家庭で過ごす時間が増加しています。その影響で、生活様式は大きく変化しました。食生活の面では、家庭で料理をする機会の増加や中食への移行などが挙げられます。そのため、調理くずや生ごみなどのいわゆる「食品廃棄物」の減量に積極的に取り組む必要があります。

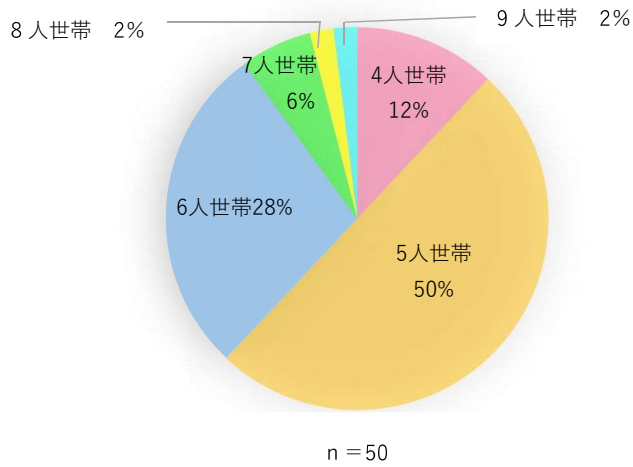
町の重要課題の一つであるごみ減量化を推進するため、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、生ごみ処理機によるごみの減量と今後のごみ減量化について調査研究を行いました。

II 実施方法

- (1) 調査対象…町内在住 50 世帯（モニター）
- (2) 選考方法…広報の折込みチラシで募集し抽選
- (3) 調査期間…令和 4 年 1 月 1 日～6 月 30 日
- (4) 調査内容…食品廃棄物と可燃ごみ袋に捨てたものの詳細
- (5) 使用機械…ハイブリッド式（温風乾燥→バイオ材分解→堆肥化）

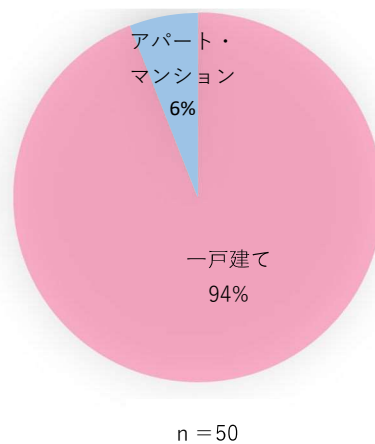
Ⅲ アンケート集計結果

質問1. あなたの家の家族構成は（世帯の人数※）

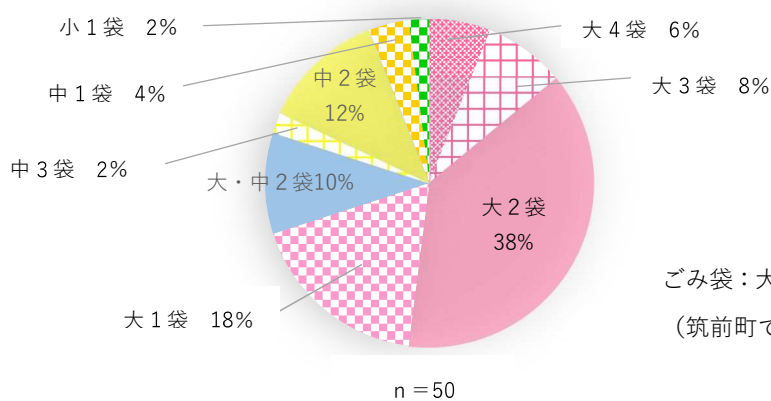


※筑前町の平均世帯人数・・・2.5人
（令和4年9月末時点）

質問2. お住まいの形態は

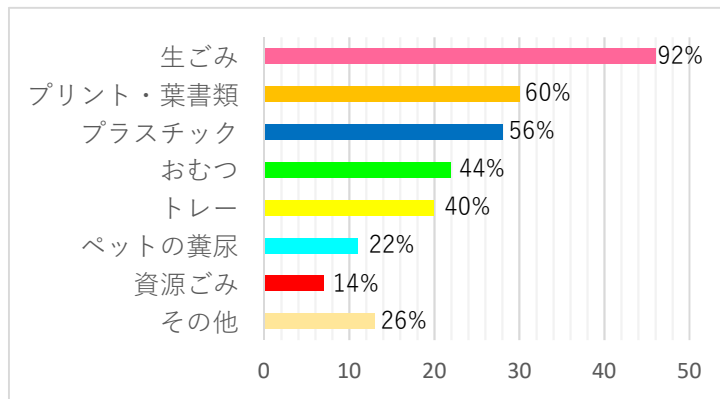


質問3. 現在、一週間に出る可燃ごみの量はどのくらいですか



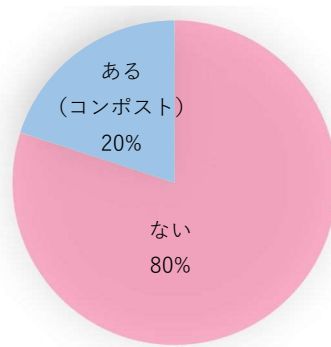
ごみ袋：大（45ℓ）、中（27ℓ）、小（18ℓ）
（筑前町では週2回、可燃ごみを収集）

質問4. 可燃ごみで出しているごみの種類を教えてください。（複数選択可）



n = 50 ※49人が複数回答

質問5. 過去に生ごみ処理機等を使用したことがありますか。

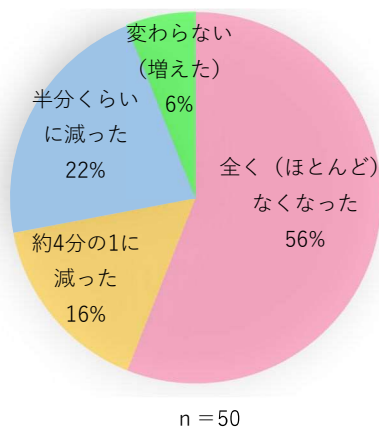


n = 50

質問6. 今回応募したきっかけは何ですか。

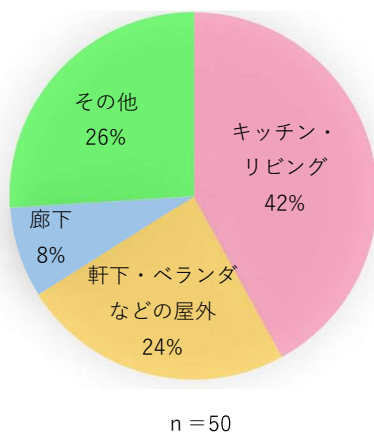
- ・ 生ごみを減らして家庭菜園の肥料にしたいと思った。
- ・ 広報で知り、家庭での生ごみの量を減らして、臭いなども対策になればと思い応募した。
- ・ ごみの減量・リサイクルに興味があった。
- ・ 生ごみの減量に興味があった。SDGsに繋がれば良い事だと思った。
- ・ 以前から生ごみ処理機に興味はあったが価格的に手が出なかった為、良い機会だと思った。
- ・ 家族から勧められた。
- ・ 現在、コンポストを利用しているが畑に設置しており 外へ持っていく手間を省きたいと思った。
- ・ どれくらい家で、生ごみが出ているか知りたかった。
- ・ 少しでもごみを減らせないか考え中だった。
- ・ 野菜くずを捨てることに疑問があり、家庭菜園で利用できないかと思った。
- ・ 資源ごみ分別を始めたら週2の可燃ごみの袋が大⇒中になった。今回のモニターを通してさらに中⇒小になれば良いと思った。

質問1. 使い始めてから約1カ月経ちましたが、野菜くずなどの生ごみは以前に比べて減りましたか。



「全く（ほとんど）なくなった」が56%と最も多く、大半の世帯が生ごみ処理機を使用することで生ごみの減量に大きな効果があったと推察されます。

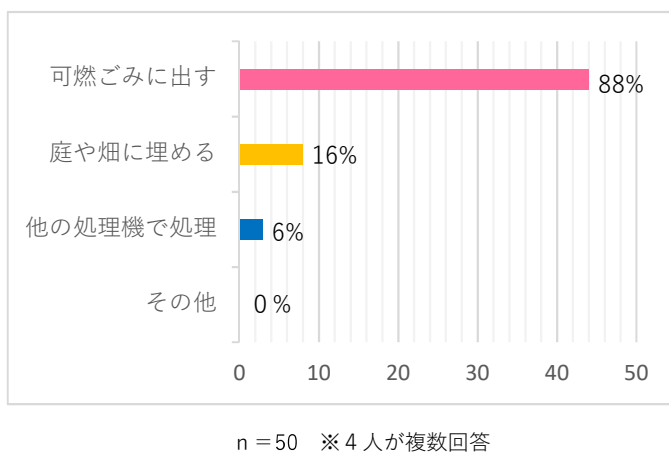
質問2. 生ごみ処理機を設置している場所を教えてください。



過半数の世帯が生ごみ処理機を屋内に設置しており「キッチン・リビング」が42%となっています。

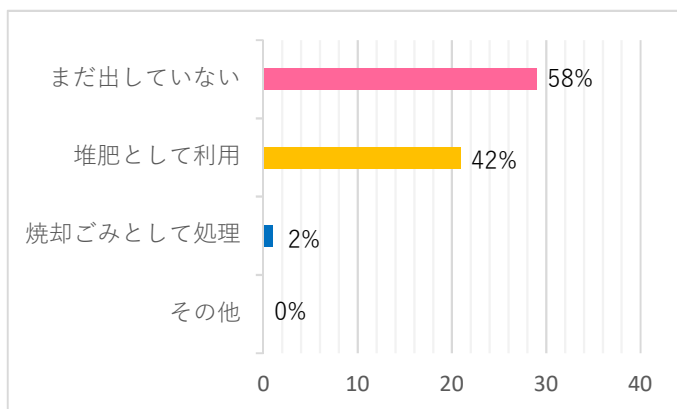
「その他」は玄関や土間・倉庫があたりました。

質問3. 生ごみ処理機を利用する前の処理方法を選んでください。



可燃ごみに出している人が全体の88%を占めています。このことから、今後は、可燃ごみとして出していた生ごみが少なくなることが期待できます。他の処理機で処理している人（6%）はコンポストを使用しています。

質問4. 現在、処理した生ごみはどうしていますか。

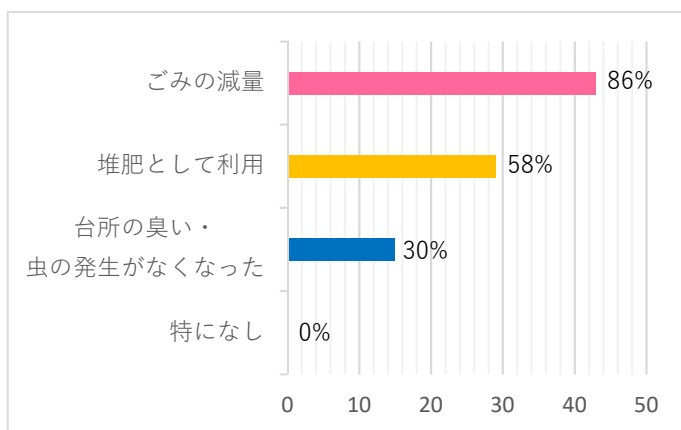


n = 50 ※ 2 人が複数回答

使用開始から1カ月弱であったため「まだ出していない」が過半数でした。「堆肥として利用」している世帯については、家庭菜園や観葉植物などに使用しています。

※焼却ごみとして処理している世帯については、堆肥として使用するように促しています。

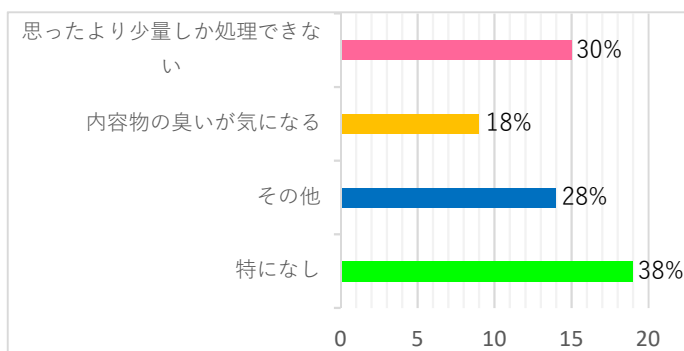
質問5. 設置した処理機の良い点、問題点があればその理由を教えてください。



n = 50 ※ 35 人が複数回答

ごみの減量が大半を占めています。1カ月間にモニター50世帯が生ごみ処理機に入れた食品廃棄物が全体で約500kgあり、1世帯あたり約10kgの生ごみが削減されています。

堆肥として利用できることや、台所の臭い・虫の発生がなくなったなどの効果が出ています。



n = 50 ※ 5 人が複数回答

「思ったより少量しか処理できない」が最も多い問題点でした。生ごみの分解に必要なバイオ材を活性化させるため、最初の1カ月間は1日の投入量が制限されており、今後は少しずつ改善されることが見込まれます。

質問6. ごみの減量化について改善点があればご記入ください。

○3R

- ・ 食べきる。（モニター事業を通して）使い切る意識が高まり、使わずに捨てることが無くなった。
- ・ 生ごみ処理機を使うことで減量を実感。
- ・ ごみに対する意識が向上し、18分別をするようになった。
- ・ プラスチックやトレーなど 洗浄しやすい容器の商品を選び、分別しやすいようにごみ箱を分ける。

○工夫・アイデア

- ・ 無駄な食材を購入しないようにする。計画的に献立をたてる。
- ・ 今後、投入量を増やすにあたって処理が難しい(時間がかかる)ものは コンポストを併用する。
- ・ バイオ材の臭気が強いため玄関に置いている。また、 珈琲かすを入れると臭いが和らぐ。

質問7. ごみの減量化で良いアイデアがあればお聞かせください。

- ・ モニター事業を継続し事業結果を公表することで意識の向上を図る。
- ・ 資源ごみ回収利用の促進。(啓発活動)
- ・ 紙類（空き箱など）は工作用として保育園に寄付。
- ・ 野菜くずなど利用が可能な食材を使ってレシピを紹介する。
- ・ 堆肥を使わない家庭に対して町が回収する。 堆肥を欲しい人（農家含む）に譲る。※

※堆肥の中には報告書の内容から肉類や犬や猫のペットの排泄物が含まれているものがありました。
また、寄生虫などの衛生面にも問題があり管理上難しいため、町での回収はできかねます。

その他（18分別に関する質問の回答）

Q：プラスチックごみなど18分別で出せるものを可燃ごみに入れている。住んでいる地区の資源ごみ回収日が分からない。（※モニター報告書で質問があったため抜粋）

A：広報4月号に折込まれているごみ収集カレンダーで日程を確認し資源化できるものは分別をお願いします。場所と時間については各区で違うため環境防災課（42-6613）へお問い合わせください。また、都合が合わなければ下記日程でも回収しておりますのでご利用ください。

①役場ステーション

場所：本庁東側駐車場

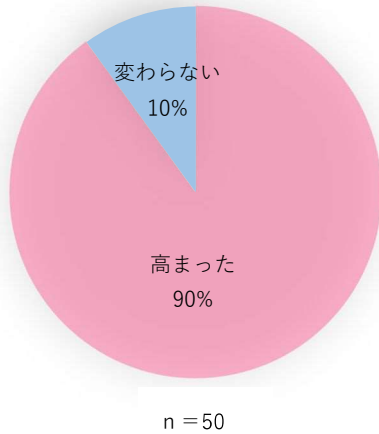
受付：奇数月の第3木曜日 15時～16時

②クリーンセンターステーション

場所：クリーンセンター（下高場 1638-5）

受付：毎月第2木曜日 15時～16時

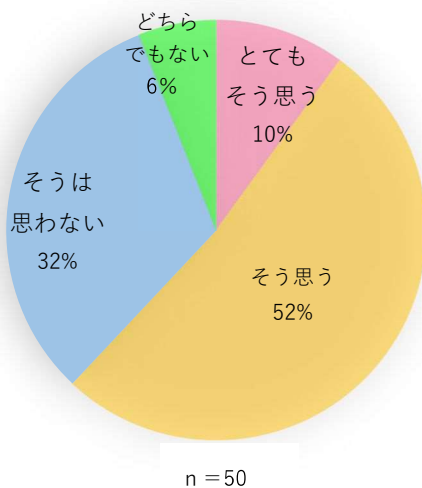
質問 1. 生ごみ処理機を使い始め、リサイクルの意識は高まりましたか。



「高まった」が90%と多く「生ごみ処理機」を使用し始めてから可燃ごみの量が減った」「資源ごみの分別収集に出す量が増えた」など報告がありました。

また「変わらない」と答えた人については、モニター開始前からリサイクル意識の高い人と推察されます。

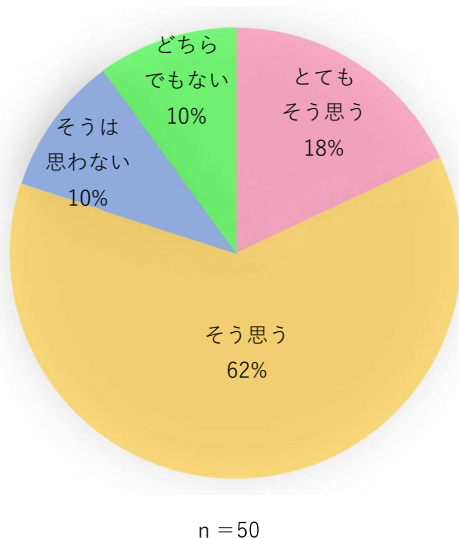
質問 2. 半額程度の補助があれば自費でも購入したいと思いますか。



自費でも購入したいと思う人は62%でした。

「そうは思わない」との回答については「初期費用がかかる、交換部品の金額が高い」「電気代が高い」など主にコストの問題が考えられます。

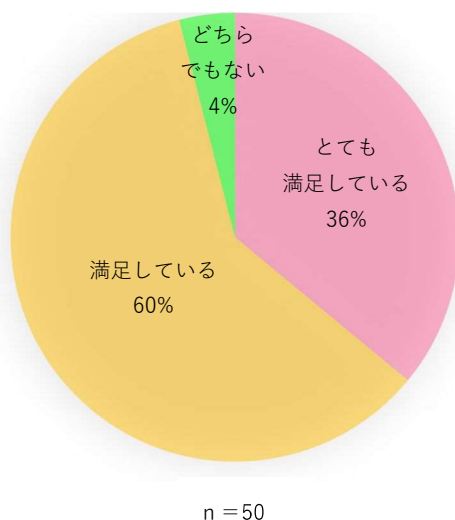
質問3. 生ごみ処理機を友人・知人にも勧めたいと思いますか。



生ごみ処理機を勧めたいと思う人は80%でした。

「捨てるはずのごみが堆肥として家庭菜園で活躍している」「生ごみ処理機を使用することで生ごみ以外のごみ削減にも取り組むきっかけとなった」などの報告がありました。

質問4. 生ごみ処理機使用後の満足度を教えてください。



満足している人が96%でした。

「今回の事業を通して家庭菜園を始めた」「家族でごみの減量について考え、話し合えた」など満足度の高さが伝わりました。

質問5. ごみの減量化について何か良いアイデアや改善点があればご記入ください。

○生ごみ処理機使用に関するアイデア

- ・生ごみだけではなく木くずや竹粉を入れたほうが良い。
- ・生ごみ処理機の上に計量器を置きその上に生ごみ用の容器を置くことで、野菜くず・果物の皮を溜めている。日々入れたごみの量が分かるので良い。
- ・食用油を凝固剤で固めて生ごみ処理機に投入した。

○生ごみ処理機に関する改善点

- ・堆肥について、有効活用できる譲渡先があると助かる。（自家処理に限界がある。）
- ・生ごみの発生量や処理能力を考えると今回の処理機が丁度良い大きさだと思ったが、機械が大きいため設置場所が限られる。
- ・生ごみ処理機内の堆肥の臭いや処理音に好き嫌いがある。
- ・密閉などの対策が必要。
- ・家庭菜園の肥料には良いが処理できず残っているものも多いので処理ができないものに関する情報があると助かる。
- ・たまに虫が出てきたりする。

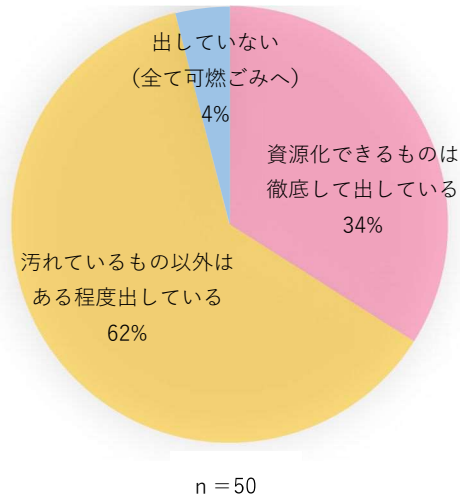
○その他

- ・野菜、果物は短期間で食べれる量を買ひ、食品をムダにすることなく消費するようになった。
- ・生ごみを可燃ごみ収集日に出さなくなったので、ごみ袋の消費が減った。

質問6. 今回のモニター制度を通して思ったことなど自由にご記入ください。

- ・子どもが多いので食べ残しや調理くずが多くあり、食や環境を見直すきっかけになった。
- ・毎日のごみを確認する事でごみ減量に対する意識が高まり、できるだけ18分別を利用するようになった。
- ・家族のごみ分別に対する関心が今まで以上に高まり協力的になった。
- ・家庭菜園で生ごみから作られた堆肥を使用し、収穫した野菜を食べた時に、今まで生ごみを可燃ごみに出していてもったいないと感じた。（生ごみの循環利用）
- ・夏場は生ごみが多くなり水分が多いものもあった。ごみ袋にドリップが出て、においの原因となっていたものが無くなったのは良かった。堆肥のにおいは香ばしく良かった。
- ・子どもに話すことやごみの分別をすることが、SDGs やより良い生活につながると実感。
- ・週に2回ごみ袋大を1つつ出していたが、週に1回ごみ袋小1つになったことが嬉しい。

**質問1. 食品以外の可燃ごみ（容器包装プラ・紙製容器包装など）について
地区の18分別にどの程度出していますか？（単一回答）**

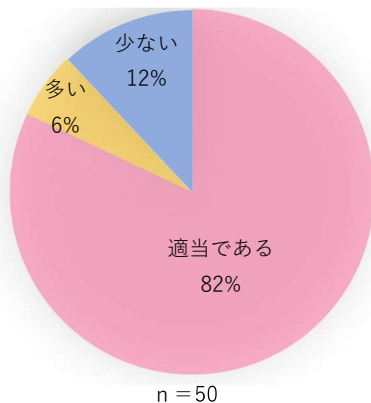


96%の人が資源ごみを地区の18分別に出しています。生ごみ処理機のモニターになる以前から、ごみ減量・資源化への関心が高いと考えられます。

質問2. 質問1で「出していない」と回答した方へ、理由を選んでください。

「出していない」を選択した人の主な理由は「保管場所が無いから」でした。

**質問3. 筑前町ではごみを18種類に分別して収集しています。
この分別数について、どう思われますか？**



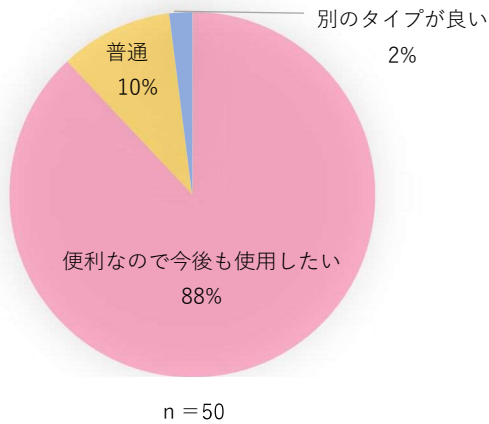
82%の人が分別数に対し「適当である」を選択しています。

質問4. 質問3で「多い」または「少ない」と回答した方へ、理由を教えてください。

「多い」の主な理由は「おぼえられない、出すたびに確認するのがひと手間に感じる」「量や種類が多い時はサンポートや店舗リサイクルBOXに持ち込んだ方が早いのではないを感じるから」などがあがりました。

「少ない」の主な理由は「分別を分かりやすくすれば多くても良い」「徹底的に分別して資源を大切にしたい」などがあがりました。

質問5. 今回のモニターで使用したハイブリッド式生ごみ処理機の感想はいかがですか？

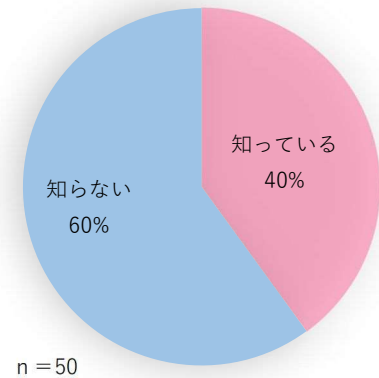


88%の人が高い満足度を感じている結果となりました。

質問6. 質問5で「別のタイプが良い」と回答した方へ、どのタイプの処理機が良いですか？また選択した理由を記入してください。（複数可）

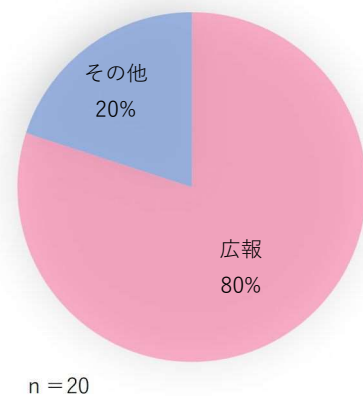
「別のタイプが良い」を選択した人については「コンポスト」を選択しており、「電気代がかかることと、常に電気を使うところがエコではないと感じるから」という理由でした。

質問7. 筑前町では生ごみ処理機・処理容器（コンポスト）について購入価格の2分の1の補助（上限3万円）を行っていることを知っていますか？

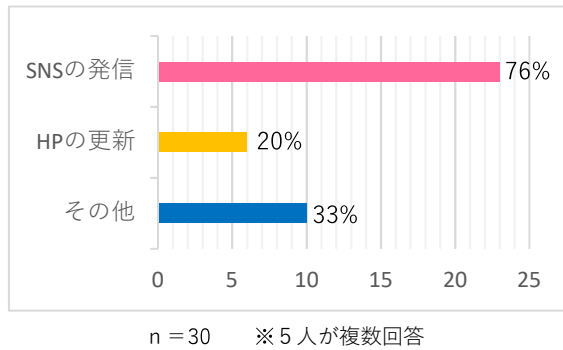


質問8. 質問7で「知っている」と回答した方へ、生ごみ処理機の補助制度をどこで知りましたか？

その他と回答した人は、町ホームページで知ったという結果でした。



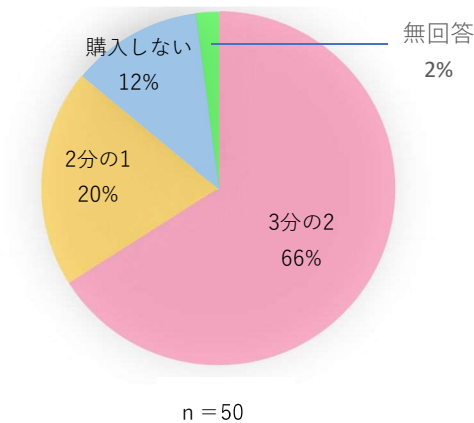
質問9. 質問7で「知らない」と回答した方へ、住民に生ごみ処理機の補助制度を周知させるにはどうすれば良いと思いますか？（複数可）



「筑前町公式 LINE など SNS の発信」が76%でした。

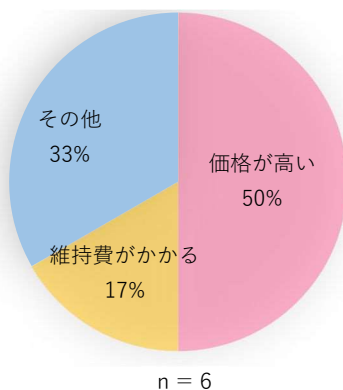
「その他」については「教育機関での普及活動」「広報で生ごみ処理機を使った感想を伝える PR 活動」などの意見があがりました。

質問10. 新たに生ごみ処理機を買い替える場合、どれくらいの補助があれば購入しますか？



66%の人が購入額3分の2の補助額であれば購入すると回答し、20%の人が2分の1であれば購入するとの回答でした。

質問11. 質問10で「購入しない」と回答した方へ、理由を選んでください。（複数可）



「購入しない」と回答した6人のうち、「価格が高い」が3人、「維持費がかかる」が1人、「その他」が2人でした。

「その他」の意見については「生ごみ処理機以外の方法（米ぬか等を混ぜて分解促進）をおこなう」などの理由があがりました。

モニター報告書 1～6月集計結果

	処理機への 投入量 (kg)	1世帯あたり 平均投入量 (g/日)	可燃ごみで 捨てた量 (ℓ) ※	堆肥化した 生ごみの量 (kg)
1月	502kg	324g/日	14,744 ℓ (476 ℓ / 日)	24kg
2月	489kg	349g/日	12,022 ℓ (429 ℓ / 日)	68kg
3月	520kg	336g/日	13,661 ℓ (441 ℓ / 日)	115kg
4月	468kg	312g/日	13,375 ℓ (446 ℓ / 日)	83kg
5月	476kg	307g/日	13,679 ℓ (441 ℓ / 日)	117kg
6月	545kg	363g/日	12,497 ℓ (416 ℓ / 日)	126kg
合計	3,000kg	332g/日	79,978 ℓ (ごみ袋大1,778袋分)	533kg

※開始前(12月)モニター全体で捨てた可燃ごみの量: 17,316 ℓ (558 ℓ / 日)

Ⅳ 意見交換会報告

① どうすればごみを減量できるか

各班 4～5 人の 5 班に分けて上記の議題について意見交換をおこないました。

【7 月 5 日開催分】

A 班	・ ごみ袋の価格を上げることが最も効果があるのではないかと。 ・ トレーや過包装のものを買わない、食べ残さないなど意識レベルで改革。 ・ 生ごみ処理機の配布又は補助金額の引上げをして普及する。
B 班	・ 意識を変えることから始める。まずは家庭内でごみ減量への意識を共有することが必要。 ・ ごみの減量を目的とした交流イベントを開催。 ・ リサイクル可能なものを参加者同士で交換・譲渡することで減量への意識を高める。 ・ リサイクルすることで町独自のポイントを付与、町内の店舗と連携して商品と交換できるようにして地域の活性化を図る。
C 班	・ 意識を変える。 ・ ごみを出さず無駄なものを買わない。
D 班	・ 無駄なものを買わない、地域や学校と連携する。 ・ 図書館で幼児へ読み聞かせをおこない、小さいころからごみについて考えてもらう。 ・ ごみが増える事でどうなるのか危機感を持ってもらうよう町独自の統計を基に広報する。 ・ 町内店舗で空のペットボトルなど資源ごみを持っていくことでポイント付与・商品と交換するような取組みをおこなう。
E 班	・ ごみ処理にかかっている費用を発信しごみ減量によって浮いた費用を新しい事業の予算に充てる。 ・ 「1 世帯あたり〇〇kg/年のごみ削減を〇年頑張れば〇〇の建設ができる」など発信。 ・ ごみ処理に対する意識を変える。 ・ 不要になった子どもの玩具や制服を検診や子育て支援施設などで受付し子育て世帯で流通できる場所を設ける。

【7 月 6 日開催分】

A 班	・ ごみの捨て方自体を工夫する。生ごみの水分を抜くことを徹底する。 ・ ごみそのものを出さない。プラスチックトレーに入っている食品を買わない。 ・ リサイクル可能なものを買ひ、箸を持参する。 ・ 炭酸水のペットボトルを買わず家庭用炭酸水製造装置を使用する。 ・ 18 分別の徹底。ごみ袋の価格を上げることでごみをなるべく出さないようにする。
B 班	・ 買い過ぎない、過剰包装を買わない。魚は買う前に店で捌いてもらう。 ・ 家庭内での資源ごみ分別箱やシュレッダーなど、ごみ減量を目的とした製品購入補助制度の導入。（シュレッダーで細分化した紙ごみは資源ごみとして回収する。） ・ エコポイント制の導入。 ・ ごみ減量の目標設定し町民へ協力を求め、達成すれば町民へ還元する。 ・ 紙製・プラスチック容器包装のごみなど、店舗やメーカーへ過包装を減らすことを啓発。 ・ 資源ごみ収集日を待てずに分別せず可燃ごみに出してしまう。資源ごみとして出しやすいような仕組みを作る。
C 班	・ 安易に物を買わない。 ・ 過包装や食べ残しが出る量の商品を買わない。
D 班	・ 生ごみ処理機を普及させる。 ・ 最近、店舗での資源ごみ収集の取組みが減っている。 ・ 月に 1 回の資源ごみ収集に出したいが量が多く保管できず可燃ごみに出してしまう。 ・ 過剰な包装のものを買わず商品を買う前に（容器包装など）捨てる方法を考える。 ・ おむつ専用袋など回収先が別であると良い。
E 班	・ 食品など使い切ることで無駄をなくす。 ・ ごみ減量モニターについて結果を取りまとめ公表。ハンドブック化して学校教材として使用する。

② 18 分別を徹底するにはどうしたらいいか

【7月5日開催分】

A 班	・ 随時出せる資源ごみ収集場所を設置、分別ごとに袋を作成し拠点回収をおこなう。 ・ ごみの分別をスマートフォンアプリで検索できるようにする。 ・ 資源ごみを出すことによってポイント付与や商品券に交換できるような取組みをおこなう。
B 班	・ 小学校などの教育機関で 18 分別を行い、学習を通してごみ減量への意識を向上させる。 ・ 筑前町では 18 分別としているが、40 分別している自治体もあるため国や県で分別数の基準を作り転入転出しても引き続き徹底できるようにする。 ・ 18 分別に関心が無い人もいるため啓発ポスターを作成する。
C 班	・ 資源化可能なものについて啓発をおこなう。 ・ 資源ごみを常時出せる場所をつくる。
D 班	・ 人目につく所に 18 分別が判り易いポスター(クイズ形式にするなど)を作成し貼る。
E 班	・ 18 分別や、地域の資源ごみ収集日時・場所について知らない人がいるため周知徹底する。 ・ 巡回バスなどを利用し資源ごみ収集場所まで行けない人の資源ごみを回収する。

【7月6日開催分】

A 班	・ 自宅内で分別できるようにする。すぐに分別できるようなコーナーを作る。 ・ 居住地域や町内施設(役場・クリーンセンター)の資源ごみ収集日時の周知。 ・ ごみ減量に関する啓発をおこなう。 ・ 資源ごみの収集日を増やす。役場内にステーションを設置。 ・ ポイント付与制の導入(貯まったポイントはごみ袋と交換)。生ごみ処理機を使うことで工夫。
B 班	・ 家庭内や学校で教育し分別への意識づけを促す。 ・ 資源ごみについて、包装容器を洗浄しているが虫がつくため保管が大変。資源ごみの収集日を増やすことで出しやすくなるのではないかな。 ・ 可燃ごみに紙おむつを占める割合が高い、専用のごみ袋を作る。(再生利用・燃料化を目的) ・ 転入者で防災無線を設置しない世帯や区に入らない世帯でも出しやすいように資源ごみ収集に関する情報を発信する。
C 班	・ 資源ごみ収集日まで保管場所を確保するのが大変、収集日を増やす。 ・ ごみ減量に対するメリットを PR、古紙をトイレットペーパーと交換やポイント付与など民間業者と連携し利用促進。 ・ 学校教育の一環として分別問題について取り上げる。 ・ 学校で一部の資源ごみ回収をおこなう。
D 班	・ 家族内で分別について意識してもらおう、資源ごみ収集日を増やす。 (プラスチック容器包装の収集日だけでも増やして良いのでは) ・ 学校関係のプリント類が多い、不要になった紙類は学校で処分する。 ・ 分別に対する児童の理解について子ども会で古紙回収をおこなっているため一定の理解はあるが18 分別については学習が必要。学校教育の一環として分別問題について取り上げることや、町で情報発信すると良い。 ・ 資源ごみ回収日が近くなれば区内の放送で呼びかける。
E 班	・ 分別のため商品のラベルシールを簡単に剥がせる仕様にするよう店舗へ啓発・呼びかけを行う。 ・ 家族内で声を掛けることで分別について意識向上を促す。 ・ 毎年配布するごみカレンダーを縮小し、冷蔵庫に貼ると見やすく活用しやすい。 ・ 月に 1、2 回の収集日では資源ごみが溜まってしまうため保管が大変である。町内での収集場所を増やすか収集日を増やす。 ・ 学校からのプリントが多い。シュレッダーの製品購入補助制度があると分別しやすい。

V 事業実施報告まとめ

1. はじめに

私たちの日常生活の中で、どうしても出てしまうごみを分別もせず、そのまま出してしまうと膨大な量になり、社会問題も引き起こしてしまいます。また、ごみを燃やすと温室効果ガスの排出につながることから地球温暖化対策として、資源ごみを分別・収集し、再資源化に取り組む必要があります。ごみ問題の解決は、一人ひとりの選択と行動が重要であり、脱炭素社会の実現につながるよう意識を高めていく必要があります。

世界各地で温暖化による異常気象が発生する中、日本は令和2年10月に地球規模での課題解決に向けて、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」（2050年までに温室効果ガスを全体としてゼロにすること）を目指すことを表明しています。カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを意味しています。「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、森林管理による「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることです。

また、ごみ減量化対策の1つとして、食品ロスの取り組みも重要です。令和元年5月に「食品ロスの削減の推進に関する法律」が制定されており、この背景には、食品ロスの問題が2015年の国連総会で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の1つとなるなど国際的にも大きなテーマとなっております。食品ロスを削減していくには、それぞれの立場で主体的にこの課題に取り組む必要があり、食べものを無駄にしない意識の醸成とその定着を図っていくことが重要です。

そのような中、町ではこれからのまちづくりの指針として第2次総合計画を令和2年3月に策定し、10年後の将来像「緑あふれる 豊かで便利な とかいなか」の実現を目指します。また、将来実現のための5つの政策として「学ぶ」「守る」「稼ぐ」「支える」「結ぶ」をキーワードにまちづくりの方向性を示しております。その中で「守る：安全安心で暮らしやすいまち」として、環境保全・循環型社会を推進しており、家庭・事業所のごみ減量の啓発とリサイクルをおこない、1世帯あたりの年間平均可燃ごみの排出量の減量化に取り組んでいるところです。

また、令和4年度は、第2次筑前町環境基本計画中間見直し策定を予定しております。第2次筑前町環境基本計画は、筑前町環境基本条例第9条に規定された計画で、筑前町総合計画の目指す将来像を環境面から実現するための環境行政マスタープランです。この計画の中間見直しにおいては、現行の計画の温室効果ガス等の目標達成状況やこれまで実施してきた取り組みの実施状況調査、そして新たな取り組みの方針が反映される予定です。

今後、ごみ減量とリサイクルを推進するため、分別収集の徹底を周知し、町全体で環境保全や循環型社会の構築に向けて新たな取り組みを展開していく必要があります。

2. 筑前町のごみ減量化への取組み

(1) ごみの出し方

- ①分別方法（広報4月号折込チラシ：18分別）による再資源化へ取組み
- ②環境美化推進員及びステーションリーダーの設置

(2) 施設整備等設置補助金

- ①可燃ごみ集積所設置補助（上限 50,000 円：2 / 3）
拠点収集場所に集積施設等の設置経費を補助
- ②資源ごみ等分別収集施設整備補助（上限 500,000 円：1 / 2）
資源ごみの集積施設の新築、増改築、修繕、資材購入を行う行政区に対する補助
- ③生ごみ処理機補助（上限 30,000 円：1 / 2）
家庭用生ごみ処理機及び容器の購入に要する経費を補助
- ④古紙等の集団回収奨励金交付制度 7 円/Kg

(3) 3010 運動を広報紙で呼びかけ

（懇談会や懇親会時に乾杯後 3 0 分と終了前 1 0 分を離席せずに食べ残しを減らす運動）

(4) マイバック運動を広報紙で呼びかけ

（マイバックを持ち歩くことでプラスチックごみ削減）

(5) 多量排出事業所へのごみ減量化の啓発

（事業所に対して廃棄物の分別及び保管・排出状況を訪問調査し啓発を行う）

(6) 3 R の推進

（リデュース：発生抑制、リユース：再利用、リサイクル：再生利用）

3. ごみ減量化対策事業の概要

(1) 事業目的

新型コロナウイルス感染症の拡大により、家庭で過ごす時間が増加しています。その影響で、生活様式は大きく変化しました。食生活の面では、家庭で料理をする機会の増加や中食への移行などが挙げられます。そのため、調理くずや生ごみなどのいわゆる「食品廃棄物」の減量に積極的に取り組む必要があります。

町の重要課題の一つであるごみ減量化を推進するため、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、生ごみ処理機によるごみの減量と今後のごみ減量化について調査研究を行いました。

(2) 取り組み内容

生ごみ減量モニターとして 50 名のモニターを募り、生ごみ処理機を配布しアンケート等を実施しました。(※モニター世帯人員 平均 5.4 人)

この取り組みにより、モデル的にごみの減量化を推進しつつ、モニターからごみ減量化に対する意見や導入機器の効果等を把握し、今後のごみ減量化対策に活かしていくものです。

(3) 期待できる効果

- ①生ごみ処理機の具体的な効果を検証
- ②SDG s を念頭に置いた CO2 削減の取り組み
- ③循環型社会に対する住民意識の高揚
- ④第 2 次筑前町総合計画「守る【8】環境保全・循環型社会の推進」施策内容③「家庭・事業所のごみの減量の啓発とリサイクル」の取り組みに寄与

4. 事業の成果と課題

(1) 生ごみ減量モニターの成果

モニター登録時に実施したアンケート結果によると、生ごみの減量化に対する意識が高い世帯がほとんどでした。6カ月間のモニター実施により、各家庭の1世帯あたりの生ごみ平均投入量（g/日）や可燃ごみで捨てたごみ袋（袋/月）の量が分かりました。

特に可燃ごみで捨てた袋の量について、モニター50世帯の1カ月平均は297袋となり、事業開始前の令和3年12月（ごみ袋大385袋/月）と比較すると88袋/月削減したことになります。生ごみ処理機への1世帯1日あたりの平均投入量は332gであり、年間に換算すると121kgもの可燃ごみ減量につながると推測できます。

また、モニター実施6カ月間で生ごみ処理機に入れた食品廃棄物の投入合計量は、50世帯で約3tでした。これは、令和3年度の筑前町全体におけるサン・ポートへの年間可燃ごみ搬入量6,915tの約0.04%にあたり、同年度の歳出よりごみ処理経費に換算すると約12万円（ごみ1tあたり約4万円）削減できると推測できます。

仮に、町内の約4割の世帯（5000世帯）が同じ排出量で1年間使用し続けた場合、約600tの削減になり、可燃ごみ全体の8.6%を削減できることになり、年間の処理経費を約2,400万円削減できると見込まれます。

(2) モニターアンケートや意見交換会から見えたもの

・生ごみ処理機普及の課題

上記のことから生ごみ処理機を使用することに一定の効果があることが分かりましたが、集合住宅等においては、処理物を堆肥として利用することが難しい世帯もあります。今後、町内に広く生ごみ処理機の導入を拡充していくためには、処理物をベランダ菜園の堆肥として利用するなど堆肥としての利用循環を推進することが重要です。併せて、ごみ減量の施策について情報発信していく必要があります。

・18分別の課題

18分別について、モニター全体の96%の世帯が地域の資源ごみ収集を利用していることが分かりました。18の分別数についてどう思うかの問いでは、82%の世帯が「適当である」との回答でした。7月に開催した意見交換会では、「18分別を徹底するにはどうしたらいいか」について議論し、ごみ減量・資源化への関心が高い人の観点から、居住地域や町内施設の資源ごみ収集日時の周知や学校などの教育施設内で分別を行うこと、資源ごみ収集の利用者数の底上げを図ることを目的としてごみ減量に対するメリットをPRし、ポイント付与やごみ袋等と交換するなどの多くの意見をいただきました。

今後は、上記を参考に18分別に関する啓発活動の強化など、行政としてできることを検討していきます。

5. 事業の総括

ごみ減量は、町の重要課題の一つであり、その取組みについては、様々な手段や施策等議論を重ねてきました。その中で、生ごみ処理機の導入がごみ減量化の有効手段の一つであると考え、購入金額の半額、上限3万円で補助を行っていますが、年間6件程度の申請にとどまっています。

このような中、コロナ禍での巣ごもり需要で家庭内のごみが増え、ごみ減量化に対する取組みをさらに加速させる必要があり、その減量化に生ごみ処理機が効果的ではないかという仮定のもと、例年の平均補助件数の10倍近くの50件を想定してモニター事業を実施することによって、ごみ減量化対策の方向性を出すことを目的に検討を重ねてきました。

今回のモニター事業を実施したことで、生ごみ処理機の使用により水分が減り、焼却処理する際の燃料費を削減できることや、利用者のリサイクル意識改革にも一定の効果があることが分かってきました。モニター参加者からの主な意見として、家族のごみ分別に対する関心が今まで以上に高まり協力的になったことや、家庭菜園で生ごみから作られた堆肥を使用し、収穫した野菜を食べた時に、生ごみを可燃ごみに出すのがもったいないと感じたなど、ごみ減量化に対する意識が変わったというような意見が多くありました。

また、生ごみだけでなく、月に一回の資源ごみ回収（18分別）になるべく持ち出すなど、リサイクルに対する意識も相乗的に高まったという意見も見受けられました。このような貴重な意見や効果等から、今後も生ごみ処理機をさらに普及させるためには、買い求めやすい機種を選定した場合のモニターの反応や、普及のカギは「口コミ」であることも想定し、モニター参加者をさらに増加して取組む必要性を感じています。また、モニター終了後も家庭や地域でごみ減量化に対してリーダーシップをとってもらい情報発信をおこなうことで、ごみ減量化へプラスの波及効果が期待できるところです。

今後は、第1回生ごみ減量モニターで明らかになった課題をさらに改善し、アイデアや工夫を整理していくため第2回生ごみ減量モニターを実施します。

おわりに、生ごみ処理機の効果を発信し導入世帯を増やしていくことは、町全体のごみ減量化に対して一定の効果があると共に、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量を下げるカーボンニュートラルに寄与する施策とも考えます。町では引き続き、ごみ減量とリサイクルに取組み、環境保全と循環型社会の推進に努めて参ります。

最後に、ご協力いただいたモニターの皆様に感謝を申し上げます。